



長崎原爆の日を迎えて

本日は登校日でした。毎年この日に「平和集会」が行われ、戦争関連の話を聞いたり、動画を視聴したり、田助っ子平和宣言をしたり、11時2分に黙祷を捧げたりしています。終戦から80年以上の年月がたち、戦争の記憶がどんどん薄れているように思います。世界に目を向けると戦争や紛争が行われており、解決の糸口をつかめない状況です。一方で、日本の子供たちは平和な環境の中で育っていますが、戦争のゲームや戦争映画などの映像を通して、戦いを身近に感じる機会がたくさんあります。戦いを楽しんでいる様子も見られます。ゲームはやり直すことができますが、実際の戦争は「やり直し」ができず、多くの命や家族の日常を失わせる悲惨なものであることを忘れてはなりません。子供たちへの適切な「教育」もまた平和を守るために大切なことです。

以下は、平和集会で校長が子供たちに話した内容です。



「焼き場に立つ少年」の写真から学ぶこと

(「焼き場に立つ少年」ジョー・オダネル撮影(1945年)の写真を見せながら)

この写真は、長崎に原爆が落とされた後に撮影された一枚です。10歳くらいの少年でしょうか。弟を背負い、原爆で亡くなった人を火葬する焼き場に行き、火葬の順番を静かに待っています。背負われている弟はすでに亡くなっています。少年は泣き叫んでいるわけでもなく、怒っているわけでもありません。ただ、唇をかみしめ、前を見つめながらじっと燃えている炎を見て立っています。この写真を見るたびに、胸が締めつけられる思いになります。

戦争がなければ、この少年はみなさんと同じように、友達と遊び、学校で勉強し、弟と一緒に笑って過ごしていたはずです。しかし、戦争はその当たり前の日常を一瞬で奪ってしまいました。家族を失い、家を失い、未来への希望までも奪われた人がたくさんいたのです。

戦争は、子どもたち、お父さんやお母さん、おじいさんやおばあさん、様々な人たちの命や暮らしを一瞬にして壊してしまったり命を奪ったりしてしまいます。平和であるからこそ、私たちは今普通に生活ができています。友だちと一緒に遊んだり勉強したりできています。楽しい夏休みを過ごすことができます。ご飯を当たり前で食べることができています。明日の命を心配せずに生きることができています。私たちの今の暮らしは平和の上に成り立っているのです。これからもずっと平和であってほしいと強く願います。

平和な世の中を守り続けるため、みなさんにできる平和づくりは、特別なことではありません。「相手の気持ちを考えること」「優しい言葉を使うこと」「ごめんねが言えること」そんな一つ一つの行動が、平和につながります。「戦争について知ること」もとても大切な平和づくりです。

8月9日は長崎に原爆が落とされた日です。この6日後に戦争は終わりました。戦争で犠牲になった多くの人たちのことを忘れず、みんなで「たすけあいの心」を大切にして、平和な学校、平和な世界をつくっていきましょう。先生たちも、皆さんと一緒に戦争の悲惨さと平和の大切さを学び続けていきます。